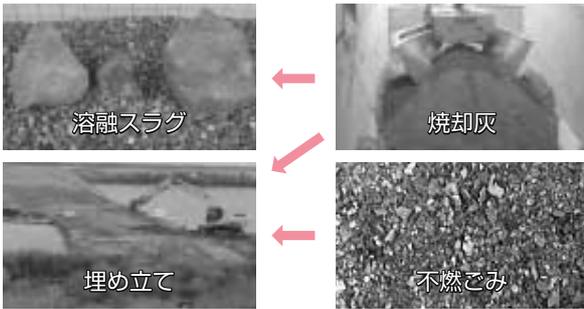


# ごみはどこへ行く？



問い合わせ▶環境保全課(清掃事業所内)／☎(76)3053

## ごみ処理の流れ



### ごみの行方

最終的なごみの行き先は、二つ。約3分の2の焼却灰と、不燃ごみは、碧南市にある「衣浦ポートアイランド」で埋め立て。

皆さんが出したごみは、どのように処理されるか知っていますか？家庭から集められた燃やせるごみは、環境クリーンセンターで焼却され、大量の焼却灰が排出されます。また、それ以外のごみはリサイクルプラザで破碎分別された後、不燃ごみが残ります。今、これらの「ごみ」の行き先が問題となっているのです。



再生事業を行っている榎前埋立処分場。過去に埋め立てたごみを掘り起こし、金属類・可燃ごみ・不燃ごみに再分別している。



### 埋め立て場が足りない！

残りの焼却灰は「溶融スラグ化」され、建設資材として利用されています。

衣浦ポートアイランドは、平成21年度に埋め立てが終了する予定です。このため、以降の埋立て場を確保する必要があります。しかし、平坦な地形の安城市内では、新たな用地の確保は難しい状況です。不燃ごみについては、以前使用していた榎前埋立場を掘り起こし、容量を広げることで用地を確保する予定です。焼却灰については、溶融スラグ化することで、問題が解決できそうですが…。



### 溶融スラグ化にも問題が



焼却灰を高温で溶かし、ゆっくり冷ますことで硬い岩石状になる。

溶融スラグ化とは、焼却灰を岩石状の塊にする処理のこと。市では、これを砕いて、河川の護岸や道路の路盤材として利用しています。しかし、一見万能に見える溶融スラグ化にも、大きな弱点があります。処理には、1トンあたり約4万5000円という高額な費用が必要なのです。もし、排出されるすべての焼却灰(年約9000トン)を処

理すると、1年あたり約4億円の費用がかかることになってしまいます。

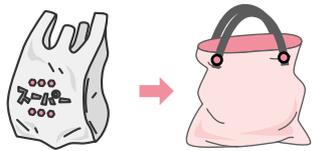


### ごみ減量の狙いは…

現在市が皆さんにお願いしている「ごみの20%減量」の狙いは、大きく分けて四つあります。まず、一つ目は「焼却場の負担軽減」。二つ目が「二酸化炭素の排出抑制」。残りの二つが、今回のポイントである「埋め立て場の延命」と「ごみ処理費用の削減」です。

榎前埋立場は、今後20年間程度使用する予定ですが、排出される不燃ごみの量により、その期間は前後します。また、溶融スラグ化についても、例えば焼却ごみを20%削減できれば、8000万円の節約が可能になります。

## マイバッグを使おう



買い物をするとき、マイバッグを使っていますか？

市内で発生するレジ袋は毎年約420トン。このほとんどが、最終的に焼却されていると思われます。

現在、市内のスーパーでのレジ袋辞退率は約10%。これを50%に引き上げることが市の目標です。今回、マイバッグ運動推進ポスターのアイデアを募集します。詳しくは15ページをご覧ください。買い物には、レジ袋をもらわないよう、皆さんのご協力をお願いします。